

6月は食育月間

食育だより

2025. June



6月8日の学校給食で非常食体験が行われます。その意義について考えてみましょう。

①唐津市の学校に備えてある非常食の味や食べ方を体験する。

非常食は、災害時に食べるものです。気持ちも落ち着かない状況での食事となりますので、食べ慣れた物を食べることは、気持ちの安定にもつながります。また、災害時に初めて食べて『口に合わなくて食べられない』となると、命を守ることはできません。

災害時のために備える食料品は、食べる経験や口に合うものを探すことがとても大切です。



これ食べたことある。みんな全部食べる事だから先生言ってる...

②非常食（災害食）を備蓄するのは何故なのか、どうすると良いのか考える機会にする。

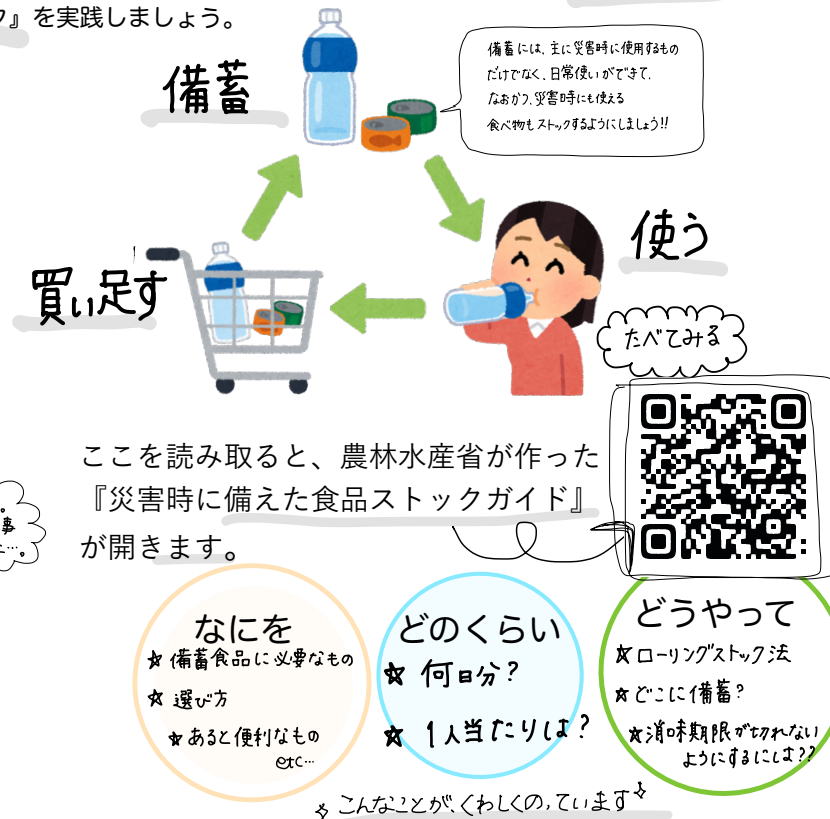
なんとなく『災害時に備えて食料品を準備しておかないといけなんじゃないか』と思っていても、実際に備蓄をしている家庭は、約半分。学校で非常食を食べながら、非常食について話を聞いたり、災害時の食事について考えたりし、それらのことを家庭での会話のテーブルにのせることで、災害への備えについての関心が高まることを願っています！

③いつもの温かくて何品もある食事に感謝することを学ぶ。

災害時の炊き出しや食料品の支給は、災害が大きければ大きい程難しくなるのではないのでしょうか。何日もおにぎりや菓子パンだけ。その菓子パンも全員分はもらえなかった…。そんなことも起こるかもしれません。温かくバラティーターに富んだ食事ができる事に感謝するとともに、被災生活乗り切るために、どんな備えが必要か、何を備えておきたいか、ぜひご家庭で話をしてみてください。

④備蓄してある非常食（災害食）の賞味期限が切れないよう、新しいものと入れ替える。

非常食を備蓄してるから安心。そのまま、何年も見直さずに備蓄し続けていると、いざ災害に遭い食べようとした時に『賞味期限が切れていて食べられなかった。』ということがあります。そうならないために、『ローリングストック』を実践しましょう。



⑤学校に備蓄してある非常食の原材料確認することで、食べられる非常食かどうかを判断し、学校の備蓄に反映させる。

唐津市が使用している非常食は、アレルギー特定原材料等28品目は不使用ですが、それ以外の食品にアレルギーがあるお子様などは、原材料を確認し喫食の可否を保護者が事前に判断する事が大切です。今回の非常食体験をする事で、事前にアレルギー対応の資料として原材料の提示が可能でし、学校もどの子が食べられないのか正確に把握することができま。さらに、これを機に学校に当人が安全に食べることができる非常食を備蓄するなどの対応を検討することが可能になるのではないのでしょうか。